

# 緑風

平成20年9月15日発行

2008  
初秋号 70

第7回水と緑の少年隊フォーラムin足尾で300本植樹  
平成20年度通常総会で新顧問に藤岡義三氏就任



【第7回水と緑の少年隊フォーラムin足尾で植樹する参加者ら】

聴えますか緑のシンフォニー



社団法人 栃木県造園建設業協会

## 『緑風』の発行日変更のお知らせ

平成元年10月1日に創刊以来、年4回の発行を続けてきましたが、この度、諸般の事情から年3回（新年号〈1月〉／新緑号〈5月〉／初秋号〈9月〉）の発行とさせていただきます。今後とも、ご愛読とご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(社) 栃木県造園建設業協会

# 緑風

No.70 初秋号  
目次

表紙写真／第7回水と緑の少年隊フォーラム in 足尾で 植樹する参加者ら	
平成20年度造園三団体通常総会開かれる……	1
平成20年度造園三団体事業計画……	2
ちよっとひと息／ホテルの話 ……	3
平成20年度国土交通 Day	
柳幸廣氏が知事表彰に輝く ……	4
第25回全国都市緑化ぐんまフェア出展 「栃木県地場素材によるなごみの庭」が 金賞受賞 ……	5
第7回水と緑の少年隊フォーラム in 足尾で 2樹種300本を植樹 ……	6
第7回水と緑の少年隊フォーラム in 足尾 参加者写真紹介 ……	8
日光市・上三依水生植物園オープン 入園者数もすでに前年を大きく突破 ……	10
とちぎの巨樹・名木案内② ……	11
造園高等技術学校で第34期生入校式 ……	12
事務局だより ……	13

## 連載/造園協会の歴史と展望

### 第25回 野本弘一氏が「とちぎマイスター」に

「とちぎマイスター制度」は、本県の製造業等を中心にした「ものづくりの現場」において熟練技能者の高齢化や若者の「ものづくり離れ」の傾向にあって技能の維持・継承が危ぶまれている中で、優れた技能者を『とちぎマイスター』と認定し、認定者の活動を通じて本県の技能水準の向上を図る目的で、平成13年度から実施されている。

野本弘一氏は、昭和6年生まれで昭和21年から家業の野鶴園（足利市／盆栽業）に従事。昭和35年に造園建設業を開始し、昭和45年には株式会社野鶴園として法人化した。日本盆栽協会公認講師として全国で活躍するほか、足利市緑地建設協同組合、足利市緑地建設協力会の設立に参画、自ら協力会会長も歴任。栃木県造園建設業協会では、理事、副会長をつとめ、特に県南地区の造園建設業の発展に尽力した。

平成17年2月18日、県公館で『とちぎマイスター』の認定証を福田知事から交付された野本氏は、「清掃は作者の心である」ことを伝えている。

# 平成20年度 通常総会開かれる

造園三団体平成19年度の事業報告・決算報告などが承認され、あわせて平成20年度の事業計画が決まった。なお、協会の君島克彦顧問の辞任に伴い、元県企業庁副庁長をつとめた藤岡義三氏が新顧問に就任した。

（社）栃木県造園建設業協会／栃木県造園建設業協同組合／職業訓練法人栃木県造園高等技術学校運営会



社団法人栃木県造園建設業協会（高梨道太郎会長）、栃木県造園建設業協同組合（清水孝真理事長）、職業訓練法人栃木県造園高等技術学校運営会（染宮正会長）の平成20年度（第35回）通常総会が5月22日、宇都宮市のホテル東日本宇都宮で開かれ、昨年度の事業報告・収支決算報告および今年度の事業計画案・予算案が可決、承認された。

人事では君島克彦顧問の辞任に伴い、新顧問に藤岡義三元栃木県企業庁副庁長が就任した。



来賓・福田富一栃木県知事

藤岡新顧問は、1941（昭16）年生まれ、67歳。昭和39年県庁土木部に配属され、都市計画課・住宅課、県公園事務所などを経て、昭和61年土木部都市施設課公園緑地係長、昭和64年都市計画課長補佐、平成4年栃木駅鉄道高架建設事務所長、平成13年県企業庁副庁長を歴任。

また、本年度の表彰者は7名で、高梨会長からそれぞれに表彰状が贈られた。（＝左写真）

【平成20年度表彰者】（敬称略）

#### ◆従業員勤務成績優秀者

鈴木 里司（株式会社 清水造園）

高橋 昭孔（山本建設株式会社）

#### ◆事業所勤務永年（30年）勤続者

廣田光次郎（株式会社 清水造園）

伊藤 等悟（株式会社栃木県総合緑化センター）

中山 清（山本建設株式会社）

#### ◆事業所勤務永年（20年）勤続者

高木 亮二（株式会社 清水造園）

#### ◆事業所勤務永年（10年）勤続者

石村 和徳（株式会社 清水造園）



新顧問に就任した藤岡義三氏



社団法人栃木県造園建設業協会  
栃木県造園建設業協同組合  
職業訓練法人栃木県造園高等技術学校運営会

# 平成20年度 事業計画

〔平成20年4月1日より  
平成21年3月31日まで〕

## ◆栃木県造園建設業協会

### I. 基本方針

近年における核家族化、少子高齢化等の人口構造の変化に伴うライフスタイルの多様化が進み、自然や緑に対する価値観が改めて見直され、地球温暖化防止とあいまって環境緑化に対する関心が高まってきている。

一方本県の都市化の進展や社会情勢の変化は、森林や平地林が減少するとともに、里山を荒廃させている。

このような状況にあって、造園緑化事業の推進をとおして、やすらぎとうるおいのある生活環境を提供する業界の果たす役割は大きいものがある。

昨年は、第6回水と緑の少年隊フォーラム in 足尾を協会会員の結束の元に450名（うち隊員232名）の参加を得ることができました。この事業を本年度も継続実施し造園建設業界の一層の発展を図るため、次の事業を重点的に推進する。

1. 緑化意識の普及啓蒙と行政施策への協力
2. 業界の経営近代化の促進
3. 造園・緑化技術の向上と事業の拡大
4. 協会組織の拡充と経営基盤の強化

### II. 事業計画

#### 1. 緑化意識の普及啓蒙と行政施策への協力

- (1) 「みどりの日」、国及び地方公共団体等が実施する緑化月間等の行事や事業を中心に、県民の緑化意識の普及啓蒙活動に協力し、郷土の自然環境の改善に資する。
- (2) 「プロジェクトEco-21」による更なる

事業の拡充を図り、県民の緑化意識の高揚に努める。

「水と緑の少年隊フォーラム in 足尾」の平成19年度における実績を踏まえ、更に充実を図りながら推進する。

- (3) 県、市町村及び外郭団体等が行う調査・資料の提供をはじめ各種の事業に積極的に協力する。

#### 2. 業界の経営近代化の促進

- (1) 電子入札、CALS/EC事業に積極的に参加する。
- (2) 造園・緑化関係公共工事の拡大と、設計・積算・歩掛の適正化及び会員の受注率向上を関係方面に要望、陳情する。
- (3) 傷害共済事業及び第三者賠償共済事業・労働総合保険の普及拡大に努める。

#### 3. 造園・緑化技術の向上

- (1) 栃木県造園高等技術学校、栃木県造園技能協議会と協力して技術講習会を開催する外、造園技術の取得援助や新技術情報の提供などを通して会員の技術の向上を図る。
- (2) 業界の安定を図るため、栃木県造園建設業協同組合の組織の拡充と事業の強化に努める。
- (3) 業界の人づくりを進めるため、栃木県造園高等技術学校の健全・円滑な運営に努める。

#### 4. 協会組織拡充と経営基盤の強化

- (1) 組織拡充を図るため、会報の発行などを通して会員相互の理解増進を図る。
- (2) 収入確保と収支の節減に努め、財政基盤の強化に努める。
- (3) 関係団体の組織と連携を密にし、より円

滑な関係の維持に努める。

- (4) 地方公共団体が制度化している都市公園等の指定管理者制度について、栃木県造園建設業協同組合と連携を強化しつつ、情報の収集に努める。
- (5) 渡良瀬遊水地の国営公園化に向け、関東四県公園緑地連絡協議会の構成会員として、積極的に気運の高揚に努める。

## ◆栃木県造園建設業協同組合

### I. 事業方針

組合の社会的地位の向上及び組織と事業の拡充に努め、引き続き公共団体からの受注、指定管理者制度の積極的な取組みを進めます。

1. 共同受注事業の推進
2. 共同購入事業の促進
3. 技術教育の充実
4. 組合運営・事業の広報

### II. 事業計画

1. 共同受注に関する事業
  - ・公共団体からの工事、管理受注の推進
  - ・指定管理者制度に伴う受託事業の推進
2. 共同購入に関する事業
  - 共同購入の推進
3. 技術教育の充実
  - ・安全管理、労働災害の講習会、その他各種講習会

- ・緑化技術の勉強会
- ・新規事業の研修会

### 4. 組合運営・事業の広報

- ・組合の運営や事業に関する情報を、組合ニュースとして年4回配布。栃木県造園建設業協会の会報「緑風」に掲載

## ◆栃木県造園高等技術学校運営会

### 1. 普通職業訓練 普通課程（高卒）

第34期入校生12名を迎え、4月4日開校した。

◇訓練予定時間数

集合訓練 400時間

分散訓練 1,100時間

◇昨年に引き続き、県の助成金を得て訓練用具の整備・訓練生確保対策事業を行う。

### 2. 普通職業訓練 短期課程

◇造園土木施工コース

30名募集 24時間実施

◇造園実技（技能検定）コース

20名募集 48時間実施

◇造園実技（実習）コース

20名募集 16時間実施

### 3. 造園高等技術学校の建設

造園高等技術学校の建設は、平成14年度において凍結が決定されている。



## ホタルの話

ホタルは、世界中にその仲間3,000種、日本にはそのうち約32種類が生息すると言われている。中でも代表的なのは「ゲンジボタル」と「ヘイケボタル」。

ゲンジボタルは体長12～18ミリで日本産最大。前胸は赤桃色で中央に太くて黒い十文字模様があり「十文字ボタル」とも呼ばれる。

一方ヘイケボタルはやや小型で体長7～10ミリ。前胸背部分には縦一文字模様があり「一文字ボタル」とも呼ばれている。

ホタルのえさはカワニナ、タニシ、モノアラガイ

等が主で、このカワニナやタニシの生息する小川やビオトープの復活が子供たちの手によって全国各地で急速に展開している。

子供たちにとってホタルは、いったいどんなものなのだろうか。かわいいのだろうか。いとおしいのだろうか。野坂昭如氏の直木賞受賞作『火垂るの墓』では、ホタルが戦争の悲惨さと幼い命の象徴として登場する。

天地の間、此の世と彼の世の間、中庸を飛び交い、鈍い光を放つホタルに、日本人の魂を重ねる人も多い。

ホタルの生息空間の回復は、日本人の魂の回復につながる言っては、ちょっと大げさか。（久也）

# 柳幸廣氏（宇都宮市・株青松園）が知事表彰に輝く



平成20年度国土交通Dayにちなみ、社団法人栃木県造園建設業協会副会長で栃木県造園建設業協同組合理事もつとめる柳幸廣氏（宇都宮市・株式会社青松園代表取締役）が7月22日、県公館において『栃木県建設事業関係功労者』として知事表彰された。

この表彰は、建設事業の発展・向上に資することを目的に毎年度知事表彰されるもので、今年度は建設事業関係功労者7名、優良建設工事業業者34社が受彰した。

柳氏は昭和21年11月26日生まれ、61歳。昭和46年6月、組織変更に伴う株式会社青松園の設立で専務取締役に就任。昭和62年12月、代表取締役に就き、手堅い経営手腕を発揮している。

先代の柳正勝氏は大正4年生まれで県造園界の大御所として活躍された。昭和50年と同55年の2回、栃木県知事表彰を受彰しており、昭和58年労働大臣表彰、平成2年秋には勲五等瑞宝章を受章。幸廣氏は造園技術習得の大半は父親の正勝氏の技術を見て盗んだという。昭和46年に専務に就任以来、現場から営業職に転向、地下足袋をネクタイに変えて家業の屋台骨を背負って現在に至っている。

平成12年に本県で開催された第17回全国都市



各受彰者の功労をねぎらう福田富一知事



緑化とちぎフェアでは、壬生総合公園施設整備工事で知事表彰、さらに庭園出展コンテストでは「鑑賞的な枯山水」が知事賞（優秀賞）に輝き、同作品は来場者の人気投票でも第1位となった。

物腰が低く、いつでも穏やかな表情の同氏の基本姿勢は、「すべて自然体で考える」だ。

「どこかで無理をしてバランスを失ってしまつては崩れてしまうだけです。あらゆる状況に対処できる唯一の姿勢が自然体と考えています。自然の流れに沿って一步一步を地道に積み重ねていきたい」が同氏の信条で、今回の受彰も「業界あつてのことで、皆様のお陰です。ありがたいことです」とあくまで控え目。

現在、（社）栃木県造園建設業協会副会長。



平成12年の第17回全国都市緑化とちぎフェアで知事賞（優秀賞）に輝いた『鑑賞的な枯山水』

## 《第25回全国都市緑化ぐんまフェア出展作品》

# 「栃木県地場素材によるなごみの庭」が金賞受賞

「花、緑そして平和～利根川の大地から～」をテーマに開催された第25回全国都市緑化ぐんまフェア（愛称：花と緑のシンフォニーぐんま2008）において、栃木県造園建設業協会が出展した作品『栃木県地場素材によるなごみの庭』がデザイン部門で見事金賞に輝いた。

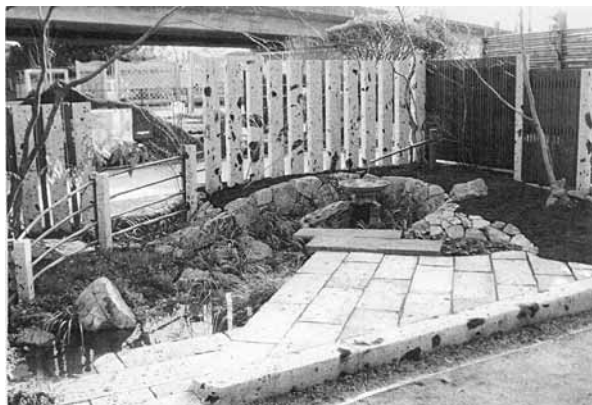
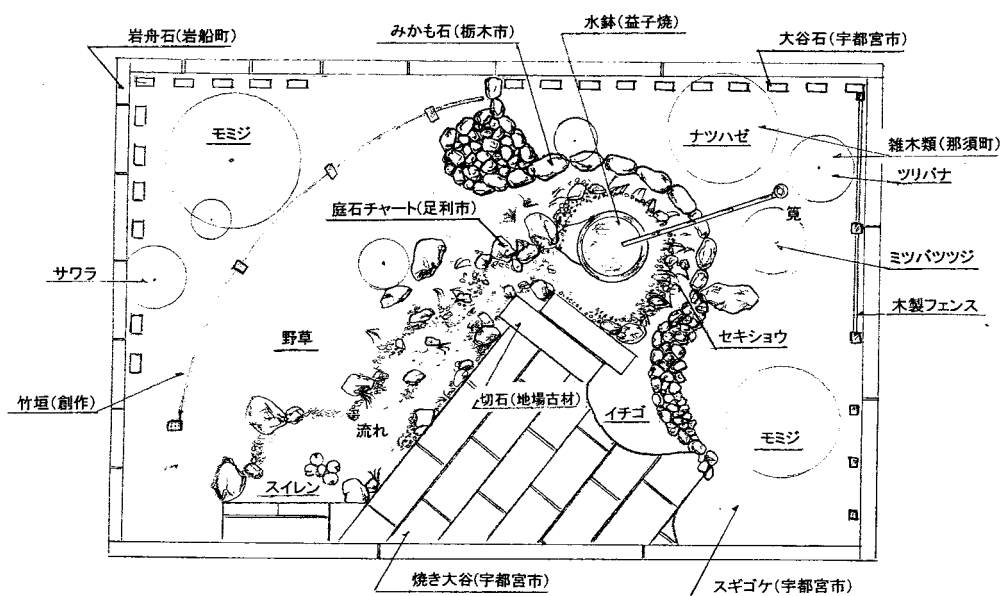
出展を担当した五月女和夫協会副会長（足利市・五月女造園）は、「水受け用の益子焼の水鉢をはじめ、大谷石、みかも石、岩舟石などすぐれた地場素材を大切にすることで、その素材

の良さを知ると同時に、現代住宅や現代建築に調和させるデザインを考えた。四季の移ろいや水、音、動きと影を取り入れ、見る人をやさしく包み込むような安らぎとなごみを感じる庭をイメージした。施工に当たった外丸造園の協力に感謝したい」と金賞受賞を喜んだ。

審査では、現代和風でありながら日本庭園の伝統的な技術をしっかり取り入れ、石と水と緑を調和させたデザインが高く評価された。

### ■栃木県造園建設業協会出展作品

## 栃木県地場素材によるなごみの庭（デザイン部門金賞）



# ■第7回水と緑の少年隊フォーラム in 足尾（5月17日） 県内各地から350人が参加、2樹種300本を植樹



- ◆主 催  
(社)栃木県造園建設業協会
- ◆後 援  
栃木県  
栃木県教育委員会  
日光市  
下野新聞社  
足尾に緑を育てる会
- ◆日 時  
平成20年(2008年)5月17日  
午前10時～
- ◆会 場  
日光市足尾町/旧松木村
- ◆植樹名・植樹数
- ①アセビ 150本
- ②レンゲツツジ 150本

第7回を迎えた『水と緑の少年隊フォーラム in 足尾』（社団法人栃木県造園建設業協会主催、栃木県・栃木県教育委員会・日光市・下野新聞社・足尾に緑を育てる会後援）が5月17日、日光市足尾町の旧松木村で開かれた。

同フォーラムは、次代を担う子供たちに緑化意識の高揚とボランティア精神を養ってもらう目的で毎年開催され、今年が7回目。

旧松木村で開かれた開会式には、別井義周日光治山事務所長(知事代理)、桑原普日光市足尾総合支所長(市長代理)、神山英昭「足尾に緑を育てる会」会長、協会顧問佐藤勉衆議院議員秘書・武正和氏、同渡辺喜美衆議院議員秘書・高橋敏行氏ら来賓はじめ、県内各地から集った少年隊員とその家族ら約350名が出席した。

主催者を代表して高梨道太郎栃木県造園建設業協会会長は、「今回で第7回目を迎えた植樹祭ですが、このようにたくさんの人にご参加頂きまして、主催者としてたいへん心強く、また本フォーラムへの深いご理解に改めて感謝申し上げます。全員が無事故で頑張りましょう」とあいさつ。

少年隊は16班に分かれて急斜面を慎重に登り、協会員と保護者で構成する作業補助員と力を合わせてアセビとレンゲツツジの苗木2樹種、300本を植樹。全員が無事故で作業を終了した。

開会式で緑化宣言をした文星芸大付属中3年の岡本源二郎さんは、「自分の植えた木が本当に育ってくれるのか、とても心配です。来年もまた参加して確かめたい」と話していた。



▲開会式では来賓が一人一人紹介された



▲緑化宣言する文星芸大付属中3年・岡本源二郎さん



▲来賓・別井義周日光治山事務所長



▲来賓・桑原普日光市足尾総合支所長



▲植樹に汗を流す参加者



▲別井所長と植樹する日光治山事務所の伊勢葉子さん(右)



▲28名で参加した宇都宮大学・学生の力で緑を育てる会の皆さん



▲植樹する佐藤勉衆議秘書の武正和氏

### ヤマザクラなど順調に育つ。7年で樹高7mに

シカの食害や管理不足で枯木が目立つ残念な光景が広がる中、少年隊によって第1回(平14)に植樹されたヤマザクラは樹高7m、幹回り30cmに成長。シラカバ、ヤマモミジも順調だ。足尾の植樹は、そのほとんどがボランティアによるもので、せっかく植えた木も枯れてしまっ  
ては何にもならない。片山文夫実行委員長は、「少年隊のボランティア精神を大切に育てていきたい」と話す。



▲高梨会長の補助で植樹する渡辺喜美衆議秘書の高橋敏行氏



▲第1回(平14)に佐藤勉衆議が植樹したヤマザクラ



▲同じく渡辺喜美衆議が植樹したシラカバ



植樹者の名前が記された記念プレート



▲ 3 班



▲ 4 班



▲ 5 班

# 第7回 水と緑の少年隊 フォーラム in 足尾

平成20年5月17日(土)  
日光市足尾町・旧松木村

＝旧松木村に緑の森を＝

【第7回水と緑の少年隊・参加者】



▲ 1 班



▲ 6 班



▲ 2 班



▲ 7 班



▲ 8班



▲ 13班



▲ 9班



▲ 14班



▲ 10班



▲ 15班



▲ 11班



▲ 16班



▲ 12班



▲ 順調な成育を確認する主催者幹部ら（第1回植樹会場で）

## ■日光国立公園・上三依水生植物園 開園式（4月15日）

# 清水孝眞理事長らがテープカットで祝う

～入園料割引券を発行、入園者数もすでに前年を大きく突破～



指定管理者制度導入に伴う日光市上三依水生植物園では4月15日、管理運営に当たる栃木県造園建設業協同組合（清水孝眞理事長）によって開園式を実施した。

式には来賓として斎藤貴志日光市観光経済部長、斎藤智明観光課長、沼尾芳訓藤原総合支所長、作道今朝夫参事兼観光商工課長、山口勇上三依自治会長、山口弦同副会長、阿久津政喜同会計、山口勝宏・阿久津豊同監査、栃木県造園建設業協会、栃木県造園高等技術学校運営会が出席、清水理事長（＝上写真、中央）らによるテープカットで開園を祝った。

また、式の最後には藤川徹園長によって現場スタッフが紹介され、来賓から大きな拍手が送られた。

同園は、“ヒマラヤの青いケシ”と言われる



多くの来賓を迎えて行われた開園式

ブルーポピーの群生で全国的に有名で、開花期の5月中旬から6月下旬にかけて多くのファンで賑わう。ブルーポピーはヒマラヤ山脈周辺にある標高3000メートル以上の高地に咲き、その青い花は神秘的で、「天の花」とも言われている。園内には約700株が群生していて同園の象徴ともいえる。

また、同園には、ニッコウキスゲ・コマクサ・ミズバショウ・キバナミズバショウ・クリンソウ・アカバナコウホネなど多数の高山植物も見られ、日光市・日光国立公園を代表する水生植物園に位置付けられている。

管理運営に当たる清水理事長は、「浅草など東武線主要駅には大きなポスターを貼ってもらい、また、“周辺マップ”を作成して近隣の散策やそば店めぐりなども楽しんでもらっています。割引券の発行で、入園者数も昨年を大きく上回る勢いでありがたいことです。11月末で今年閉園しますが、今後の課題として7～8月の夏場のサービスをより充実しなければなりません。ハード面、ソフト面の両方からその具体策を検討中です。より良いサービスを目指して、上三依地区の皆さんと一緒に頑張ります」と話す。



開園式では管理運営に当たるスタッフが紹介された



## カヤの巨樹(幹回り3m以上) 2題

カヤ(榎)は、イチイ科の常緑高木で、裸子植物です。カヤの実は2cmほどの楕円形をしていて、年を越して翌年の秋に黒く熟して裂けます。独得の上品な芳香があり、昔から人々に好まれています。

また、カヤは雌雄異株の常緑高木で、大きいものは樹高40メートルにもなります。4月～5月に先端の枝に花を付け、雄花は黄色で雌花は

緑色で目立たないのも特徴です。葉の先端は針のように尖っていて触ると痛く、葉裏には気孔帯の2本線がととてもきれいです。

本州(宮城県以西)、四国、九州に広く分布し、碁盤や将棋盤に多く用いられていて、名盤ともなると数百万～数千万円もするそうです。

本県のカヤの巨樹は、何と言っても足利市竜泉寺のカヤ(820cm)が第1位。茂木町覚成院のカヤ(630cm)、鹿沼市叫台のカヤ(620cm)、真岡市遍照寺のカヤ(615cm)と続きます。本県のカヤの巨樹(幹回り3m以上)は、64本が確認されています。

全国的にみると、福島県白河市(旧大信村)にある「町屋の二本カヤ」が1240cmで第1位。同じく福島県田村市(旧大越町)のカヤが1180cmで第2位。本県の第1位・足利市竜泉寺のカヤは第8位となっています。



◀真岡市・遍照寺のカヤ

▲鹿沼市・叫台のカヤ

### 〈お詫び〉

緑風第69号(惜春号)掲載の「壬生町本丸城址公園のエドヒガンザクラが、紹介した写真の姿とは程遠い姿になっていました。土手から垂れ下がった枝がバッサリ切り落とされてしまいました。その容姿の美しさを失って悲しい気持ちになったのは筆者だけでしょうか。特別に危険であったなら仕方ないことですが、残念でなりません。お詫び申し上げます。(金田)



一般土木・総合造園業

## 株式会社 竹葉建設

〒329-0412 栃木県下野市柴1087  
TEL. 0285(44)7688 FAX. 0285(44)5883  
E-mail: chikuyo@gaea.ocn.ne.jp

緑の王国づくり



## 八州造園株式会社

代表取締役 高梨道太郎

本社 宇都宮市鶴岡町210-15 ☎028-648-6336  
東北支店 須賀川市卸町55 ☎0248-72-2083

# 造園高等技術学校で12名の入校生を迎える

■ 4月4日、職業訓練法人栃木県造園高等技術学校（第34期生）

平成20年度（第34期生）栃木県造園高等技術学校（木山八郎学校長）入校式が4月4日、12名の入校生を迎えて同校で行われた。

優れた造園技術者の養成を目的に昭和48年4月に開校した同校は、昭和51年に職業訓練法人の認定を受け、翌年には学校運営会が設立された。開校以来、この3月までに通算33期773名の修了生を輩出している伝統校で、全国でも有数の造園学校である。

木山校長は、「伝統ある本校で学ぶことを誇りとして、中途挫折することなく、造園の技術と知識の習得に頑張ってください。さらに、国家資格を取得するのはもちろんですが、“初心忘るべからず”ということわざのとおり、本日のこの感激を忘れることなく謙虚な気持ちと自信を持って学校生活を送って頂き、人間としての大切な教養・良識を身につけて心豊かな社会人になって下さい。人間の能力はそんなに差があるものではありません。もし、少々の差があるとすれば、学ぼうとする気持ちであり、根気であり、気迫であると思います。どうか何事にも前向きで強い精神力と気力を持って頑張ってください」と、式辞を述べた。

来賓の塩谷龍二三県産業労働観光部労働政策課主幹兼課長補佐、高梨道太郎栃木県造園建設業協会会長や染宮正学校運営会長も一同に12名の新入校生を激励した。



「本県産業を支える立派な技能者になって欲しい」と知事祝辞を代読する塩谷龍二三県産業労働観光部労働政策課主幹兼課長補佐



入校生を代表して、青柳友和さん（有限会社青柳造園／宇都宮市）が「私たちは学校の規則を守り、先生方のご指導のもとに技術の習得と人格の練磨につとめ、幅広い適応力を持った造園技術者となることを誓います」と誓いの言葉を述べて入校式を終了した。

## ■平成20年度入校生（12名）

青柳 友和	（有）青柳造園・宇都宮市
浅見 豊	（株）永沢緑化苑・佐野市
阿部 昇次	（有）荘樹園・大田原市
池田 翔太	（有）植東園・益子町
石巻 裕通	（株）竹葉建設・下野市
小林 正房	（株）清水造園・宇都宮市
佐々木 淳	（有）尾嶋造園・宇都宮市
鈴木 仁志	（有）荘樹園・大田原市
関本 雅	（関本造園・那須烏山市）
中里 寿広	（清原開拓造園（株）・宇都宮市）
成田 宗弘	（株）栃木緑化造園・宇都宮市
信末 直洋	（信末造園・小山市）



木山校長（右）に入校生誓いの言葉を述べる青柳友和さん（中央）

## 最近の主な動き



## 事務局だより

### 《4月》

- 1日 日光市・上三依水生植物園引継式（組合）
- 4日 平成20年度（第34期）造園学校入校式
- 7日 総務委員会／企画委員会（組合）
- 8日 北山霊園管理運営委員会（組合）  
企画広報委員会
- 9日 緊急理事会
- 10日 第25回全国都市緑化ぐんまフェア開催
- 14日 上三依水生植物園報道関係説明会（組合）
- 15日 上三依水生植物園開園式（組合）  
暫定税率早期成立総決起大会
- 21日 「21・プロジェクトチーム」会議
- 26日 日光地区アイロード実施
- 30日 正・副会長会議／総務委員会合同会議

### 《5月》

- 1日 正・副理事長会議（組合）
- 8日 造園三団体監査  
北山霊園管理運営委員会（組合）
- 9日 正・副会長会議／総務委員会合同会議  
特別渉外委員会  
理事会（組合）
- 14日 協会・学校運営会合同理事会
- 17日 第7回水と緑の少年隊フォーラムin足尾
- 22日 平成20年度造園三団体通常総会

- 27日 正・副会長会議
- 28日 「21・プロジェクトチーム」会議  
青年部総会

### 《6月》

- 4日 北山霊園管理運営委員会（組合）
- 9日 造園学校同窓会監査
- 13日 特別渉外委員会
- 18日 「21・プロジェクトチーム」会議  
造園技能協議会総会
- 22日 造園学校同窓会総会・研修会
- 25日 特別渉外委員会
- 26日 入札制度説明会

### 《7月》

- 4日 北山霊園管理運営委員会（組合）
- 6日 福田富一後援会総会
- 8日 正・副理事長会議（組合）
- 15日 理事会（組合）
- 18日 正・副会長会議
- 19日 宇都宮地区アイロード実施
- 22日 柳幸廣氏知事表彰式（県公館）  
「21・プロジェクトチーム」会議

### 《8月》

- 5日 北山霊園管理運営委員会（組合）
- 25日 企画広報委員会（編集会議）

### ◆社名変更のお知らせ

下都賀郡藤岡町大字中根746  
株式会社今泉造園土木（旧・有限会社今泉造園土木）

### ◆代表者変更のお知らせ

足利市鹿島町447  
株式会社増田造園

代表取締役 増田 博一

### ◆FAX番号変更のお知らせ

宇都宮市鑑山町1960-2  
清原開拓造園株式会社  
(新) 028-667-8194

伝統ある造園設計施工

株式会社 清水造園

〒320-0866 宇都宮市西大寛2丁目5番46号  
電話 (028) 635-4603(代)  
FAX (028) 634-9723

## 【21・プロジェクトチーム】 その目的と活動

### 次代を担う子どもたちの眼と心にやさしい花と緑の通学路 二酸化炭素の「削減」より酸素の供給を考えたい造園建設業

栃木県内の公共施設・道路・河川・農地・山林等の緑地帯における『緑の計画・設計・考案』を行い、景観に配慮した社会資本整備の活用を図ることを目的に、当協会は「21・プロジェクトチーム」を設立しました。

すでに当協会では、ランニングコスト(維持管理費用)の縮減に伴う「愛ロード」を積極的に実施すると共に、地域との連携・協働による地域住民参加型の維持管理を推進する一方、「水と緑の少年隊フォーラム in 足尾」を毎年主催し、次代を担う子どもたちに花や緑の大切さを啓蒙する事業を展開(今年で7回目)しております。

【21・プロジェクトチーム】では、これまで防草シートと地被植物による緑化工法を提案、ランニングコストとライフサイクルコスト(生涯コスト)の縮減に大きな実績を残しました。また、子どもたちが通学路で見つけた一輪の花、すがすがしい緑に、やさしい眼とこころを養ってもらえるものと期待しております。

今後も様々な緑化工法を模索・起案して関係各方面に提案とご紹介をさせて頂いて、造園建設業の仕事の拡大はもちろん、官民一体となって地球規模での環境改善に貢献したいと考えております。ご理解とご指導の程、よろしくお願い申し上げます。



今年で7回目を迎えた『水と緑の少年隊フォーラム in 足尾』では、県内各地から日光市の旧足尾町松木地区に集い、ヤマザクラ・シラカバ・コナラ・ヤマモミジなどの植樹活動を展開。荒廃した足尾の山肌に緑を回復するとともに、次代を担う子どもたちに、かけがえのない水と緑の大切さを学んでもらっています。苗木と子どもたちの成長が楽しみな事業です。

聴えますか緑のシンフォニー

社団法人

栃木県造園建設業協会

【21・プロジェクトチーム】



〒321-0924

栃木県宇都宮市下栗1丁目11-3

TEL. 028-633-5484

FAX. 028-632-8030

ホームページ <http://www.tochizokyo.or.jp>